



ブンブンは今日も行く！

通信

No.6 2014年9月
発行 はちみつ會

ホームページ <http://hachimitsukai.jimdo.com/>

寄付金振込先：ゆうちょ銀行

ゆうちょ銀行から 00150-8-711082

他行から 〇一九支店 当座 0711082

いずれも口座名義：ハチミツカイ

福島に暮らす方々の声に耳を傾ける旅——早秋の福島に行ってきました！

「みさとユースホテル」(伊達郡霊山町)を訪ねて

朝 5:30 に町田駅に集合した一行4名は、レンタカーで福島へ。新幹線で向かった1名と合流した後、伊達郡霊山町にある「みさとユースホテル」を訪れました。ここは、NHK 番組「にっぽん紀行」に登場した、名物おばあちゃん・トクさんと、息子の清野さんが経営するアットホームな宿泊施設。はちみつ會のメンバー1名(残念ながら今回は参加できず)をふくむ、全国各地の「ファン」が通いつめ、愛してやまない場所なのです。

おばあちゃんお手製の野菜料理や、山歩き・川遊びが自慢だったこの場所を、放射能がおそいました。敷地の前を流れる小川のすぐ向こうに、除染土を詰め込んだ袋が積み上げてあります。飄々とした清野さんが、そのことを話すときは本当に悔しそうな表情でした。緑豊かな風景を見つめながら、ぼつりと「米、野菜、果物、山草…この地域は何でも採れるんだ」と。今は、荒れた田があちこちに見えます。

最後におばあちゃんと一緒に歌った「みさとユースの歌」。40年の思い出がこもった歌声でした。(須永)



はちみつ會の保養ツアー参加者12名との「同窓会」



今回が3回目になる、ツアー参加者との「同窓会」。福島では夏休み最後の土曜日の夜に、12人が集いました。参加者の皆さんの地元で見せる姿に、ちょっとドキドキしながらお喋り開始。夏休みをどう過ごしたか、どこへ行ったか、どんな保養があるのか、つい、いろいろ興味が出て、いっぱい聞いちゃう。事故から3年たった現在、いろんな所で、いろんなやり方で、リフレッシュツアーがあると思う。

そして3年たって、日々の暮らしの中で感じる事を聞かせて貰う。みんな各々の人柄のにじむ工夫で子どもを守る暮らしをされていた。

「はちみつ會のツアーって、丁寧でいいですよ」と言われて、身の置き所のない申し訳なさを感じる。福島の方々やメンバーやボランティアとこうやって縁が出来た事。そのきっかけになっている原発事故の事を思うとごちゃごちゃした気持ちになる。それでも11月、みんなと会うときは焼き芋したいなと、具体的な事を考えて、具体的にいいなと思います。又、集まりましょうね。(八木)

安達運動場仮設住宅(二本松市)のお祭りに参加しました

2日目は、浪江町仮設住宅のお祭りにお邪魔してきました。始まる前の日中だったので、以前にお話を伺った前自治会長の本田さんとは挨拶程度しかできませんでしたが、とても楽しそうでした。実は一瞬、本田さんとわからないくらいの笑顔でした。今までは震災当日や現状など、深刻なお話が多かったせいでしょうか。むしろこちらの表情が、本来あるべき姿なのでしょう。

挨拶を終え、少し仮設住宅を歩きました。敷地内にモニタリングポストやホールボディカウンターの検査室がありました。浪江町の方々は避難当時、SPEEDIのデータを教えてもらえなかった為に、放射線の高い方、高い方へと逃げる事になりました。それによって、未だに拭えない初期被曝の不安があります。そして今も変わらず、狭くて味気ない仮設住宅に住み続け、その仮設住宅ですら、低いとは言えない汚染があります。

状況は何も進展していないのですが、東の間ではあれ、浪江の方々の笑顔が見られた事は良かったと思いました。お祭りが終わると、再び仮設の生活に戻り現実を突きつけられる事を考えると、胸が苦しくなります。(横山)

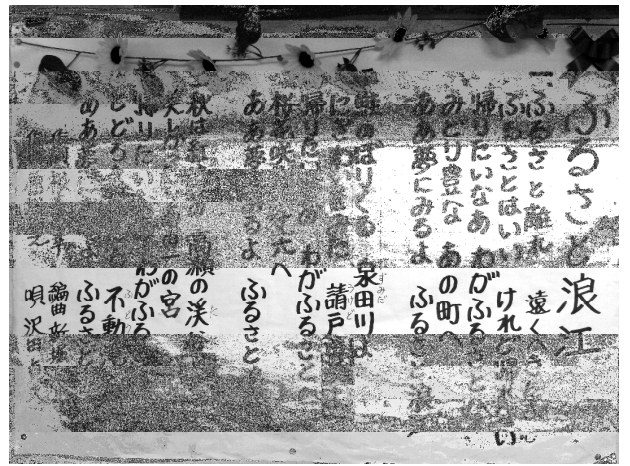


旧平石小仮設住宅（二本松市）を訪ねて

自治会長さん始め、集まってくださった全員が女性で、茶話会のような和やかな雰囲気だったことが、印象深かったです。広島の土砂崩れや、知り合いのスリランカの方を積極的に支援していらしたことに、深い共感を覚えました。「みんな大変なんだから、私らに出来ることはこれからもしていきたい」。今まだ大変な方々の言葉だけに、とても重かったです。

「3年かかってやっと、今のコミュニティが出来た。ご近所とも、作物を贈り合うなどの良好な関係が築かれている。それをまた、新たな土地で一から築かなければならないかと思うと、定住先を積極的に探す気持ちも起きにくい」といいます。

ほとんどの方が、いまの仮設住宅が避難先として4カ所目、なかには7カ所目という方もいらっしゃる、先の見通しが立たないことも含めてなかなか落ち着いた生活を送れない様子、揺れる気持ちも伝わってくる、そんな中にもゆっくりと静かな時間を共に過ごすことができたように思います。（佐野）



福島訪問に参加して

今回、はちみつ會のメンバーにお誘いをいただき、福島を訪問したことで、貴重な時間を過ごすことができた。特に印象に残ったのは、二本松の仮設住宅でのお話の会のことだ。震災直後のこと、避難をたびたび繰り返した後に、現在は仮設住宅に落ち着いていること、仮設住宅の狭小な環境のこと、仮設住宅内のコミュニティのことなど、貴重な生の声をたくさん聴くことが出来た。「自然災害は他人ごとではなく、いつ誰に襲いかかるかわからないこと」「震災のために仮設に移って暮らしている人がまだ大勢いること」。被災者の方が我々に覚えておいてほしいとお話ししてくださった言葉が耳に残っている。

これからも保養の活動をはじめとした、被災者支援の活動を続けるに当たり、今回の福島行きで学んだこと、感じたことは、常に心の中に置いておきたい。（山本）

伝えたい！福島からの声 保養ツアー同窓会に参加されたお母さんたちに、今の思いを綴っていただきました。

- ◆住宅の除染がすすんでいます、その土が自宅保管になっていて不安に思っています。
- ◆病気になるリスクを毎日積み重ねているという中で生活は、とてもストレスを感じます。野菜選びもそうですし、地元の野菜や果物にも抵抗があります。学校や幼稚園でも地元の牛乳を使用して、お出かけも近所の山だったりします。でも3年たっていると、いまさら一保護者として言うわけにもいかず、線量の調査はしたのかなあ…と疑念を持っていたり、大きな集団だと従っているしかありません。お母さん同士で放射能の話もしにくいですし、保養に対する考えもそれぞれなので、最近では自分からは口をつくむようにしています。
- ◆原発事故のことが、福島の人たちでもだんだんと遠のいてきていること。子どもが小さい人ほど、考えなくてはいけない問題がたくさんあるのに、「もう大丈夫でしょ？」と思っている方がたくさんいる現実。子どもの将来が心配でなりません。もっと現実を、現状を聞いてほしいです。
- ◆福島から離れたい気持ちもありますが、離れる生活にも不安があるのも事実です。子どもを守れるのは親だけだと思うとつらい気持ちがあります。私ができることは、なるべく安全な食材を選び子どもたちに食べさせ、線量の低い場所で遊ばせ、長い休みには保養に参加させてもらうことです。
- ◆私たちが求めているものは、「安心して暮らすことができる日常」です。子どもたちへの影響が、どのように現れるかは未知です。福島の子どもたちにご協力くださいますようお願い致します。

《2014年11月22～24日 秋の3連休《福島の親子・町田の森あそびツアー》第4弾！！》

ボランティア（子どもの見守り・食事・搬出入など）・寄付金のご協力をお願いします！

今年の秋も、大地沢青少年センターにて、「福島の親子・町田の森あそびツアー第4弾～秋の森はワクワクがいっぱい！もみじもほっぺもまっかだね♪」を開催します。福島から約40名の親子が参加します。子どもの見守り・食事・搬出入などを手伝ってくださるボランティアを募集中。何かしたい、一緒に楽しみたい、という気持ちがあれば、どなたでも大丈夫。お待ちしております。ツアーを支えるご寄付もお願いしています。ご協力お願いいたします。



【問合せ・申込先】 TEL080-8898-7860（やぎ） E-mail hachimitsukai@yahoo.co.jp